SAFE COMMUNITY TOWADA

子どもの安全対策部会

発表日　　令和５年11月17日（金）
発表者　　子どもの安全対策部会
　　部会長　櫻田　映子

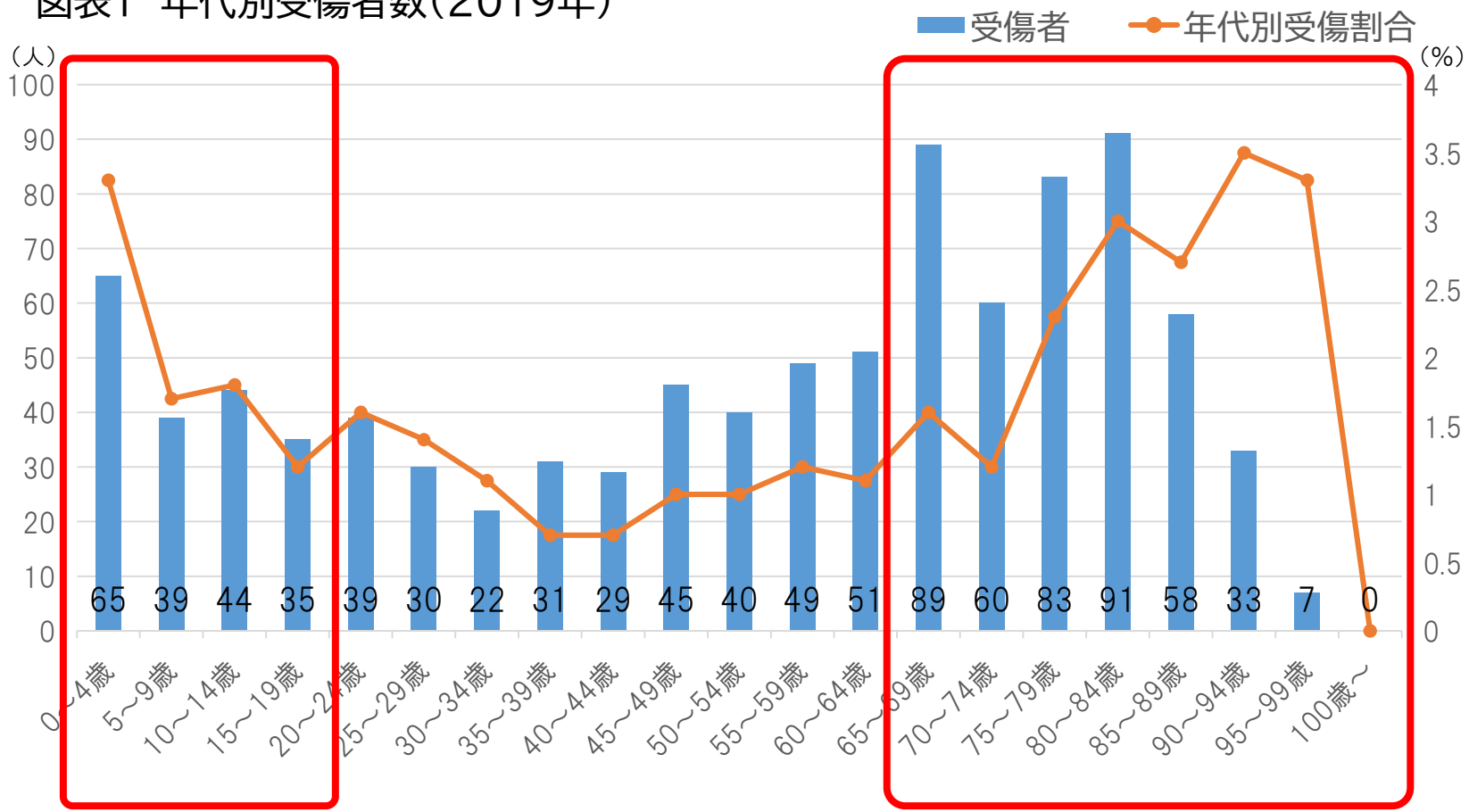
子どもの安全対策部会員

区分		構成
市民団体等	1	十和田市連合婦人会
	2	十和田市連合PTA
	3	とわだセーフコミュニティをみんなですすめ隊
	4	特定非営利活動法人　スマイルラボ
関係機関等	5	十和田地区保育研究会
行政関係	6	十和田市こども支援課
	7	十和田市健康増進課
	8	十和田市教育委員会指導課

子どもの安全対策部会　設置の背景

■ 年代別の受傷者割合が高いのは子どもと高齢者

図表1　年代別受傷者数（2019年）

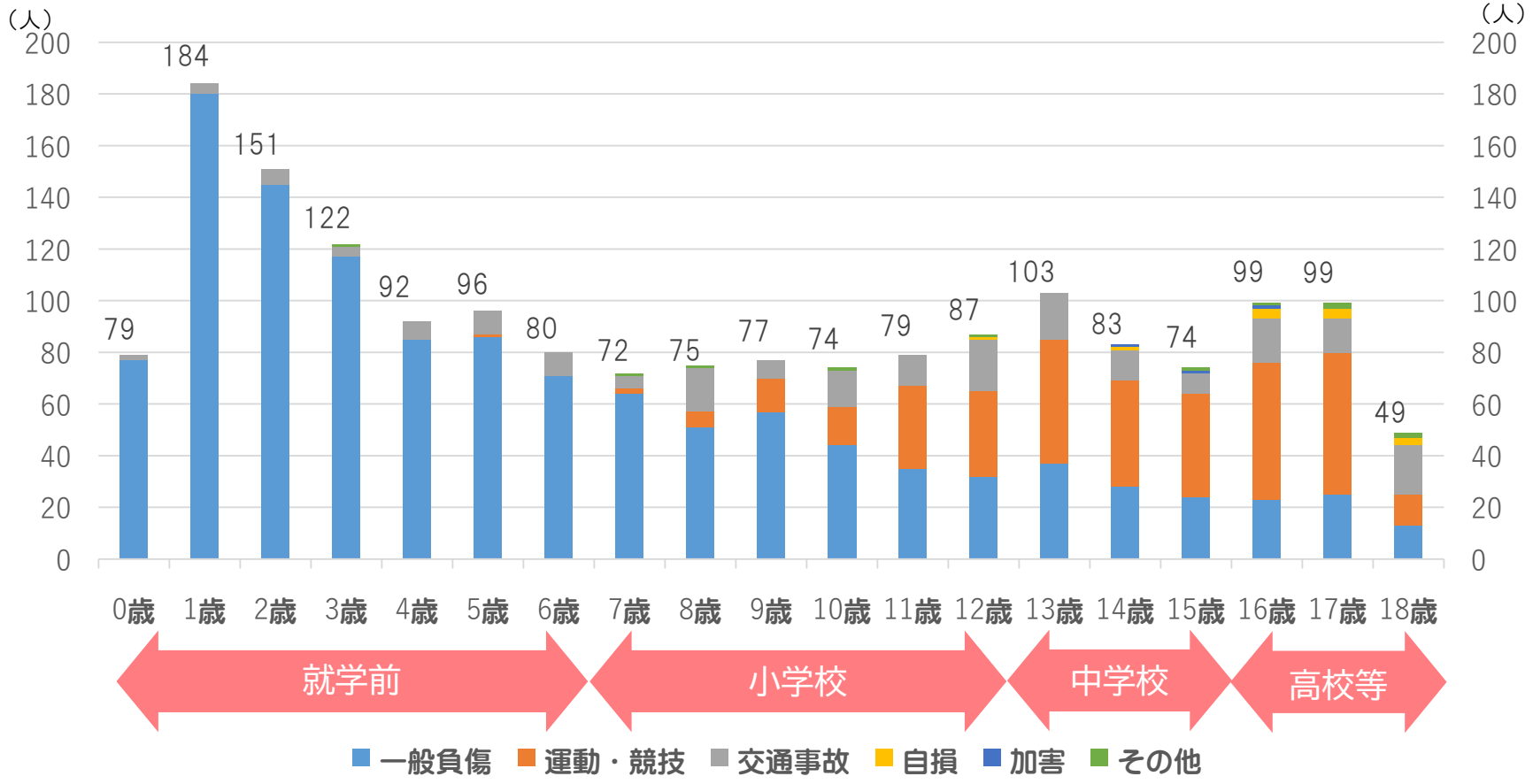


出典：救急搬送及び市立中央病院受診データ（2019年）、住民基本台帳（2019年9月30日現在）

データから見る課題①

■ 0～10歳は一般負傷、11～17歳は運動・競技での受傷が多い

図表2　0～18歳までの外傷受傷種別の人数（n=1,775）



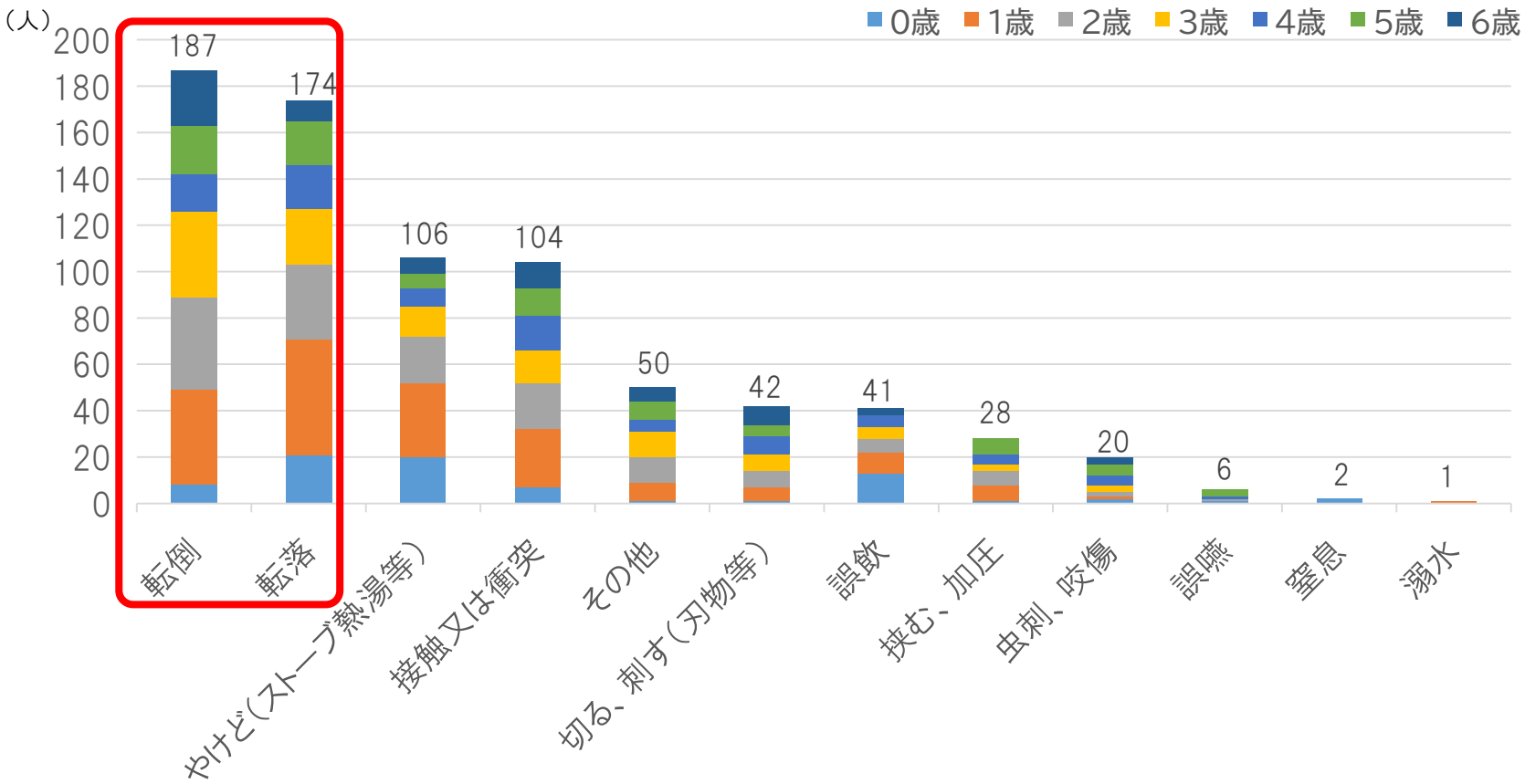
出典：救急搬送及び市立中央病院受診データ（2013年～2022年）

データから見る課題②

■ 発達段階ごとの受傷状況①

就学前（0～6歳）の乳幼児の一般負傷では、転倒、転落による受傷者が多い

図表3　乳幼児の一般負傷の受傷内容（n=761）

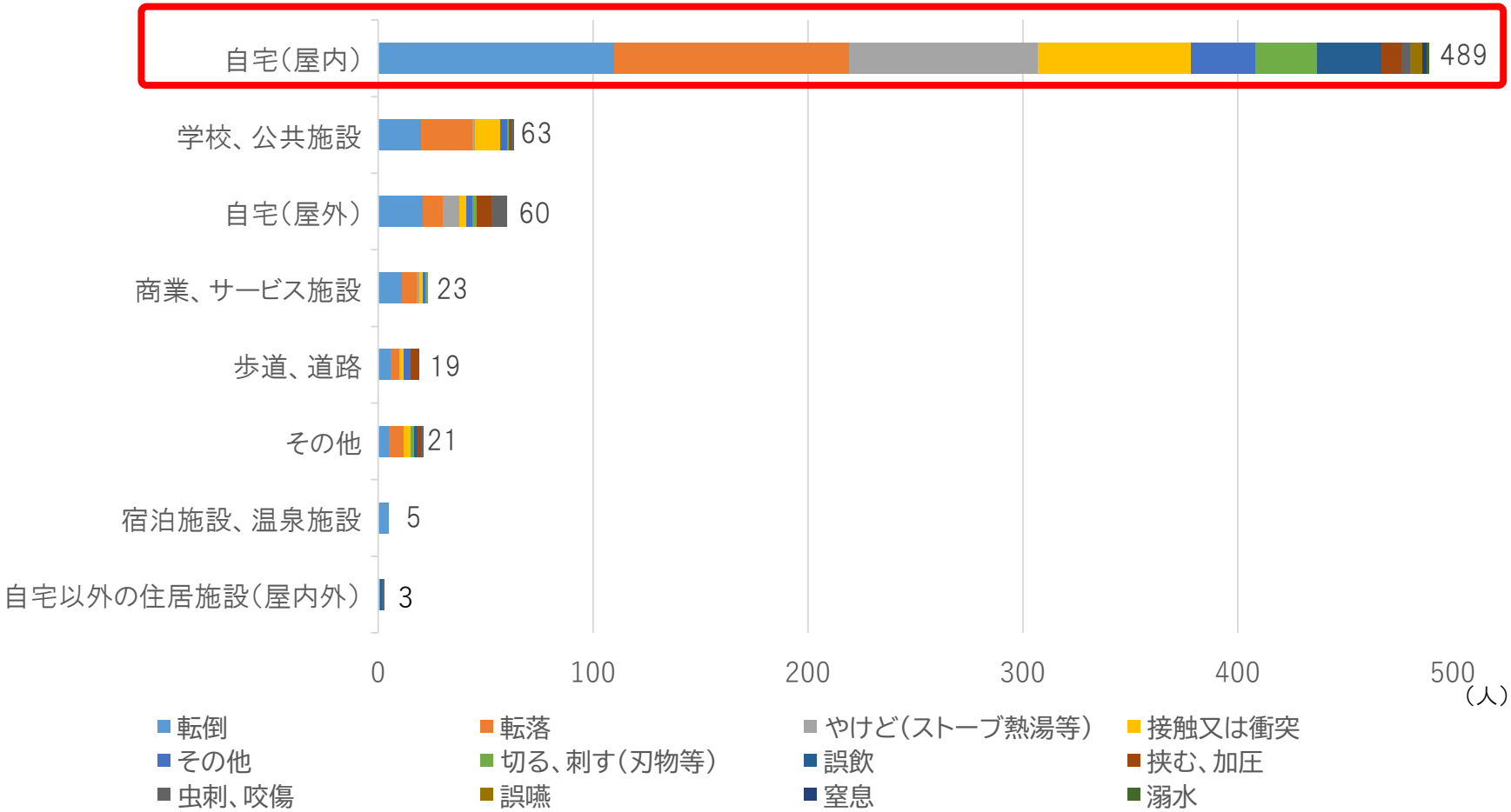


出典：救急搬送及び市立中央病院受診データ（2013年～2022年）

データから見る課題③

■ 自宅(屋内)での怪我が大多数を占めている

図表4　就学前(0～6歳)の乳幼児の一般負傷の発生場所(n=683)



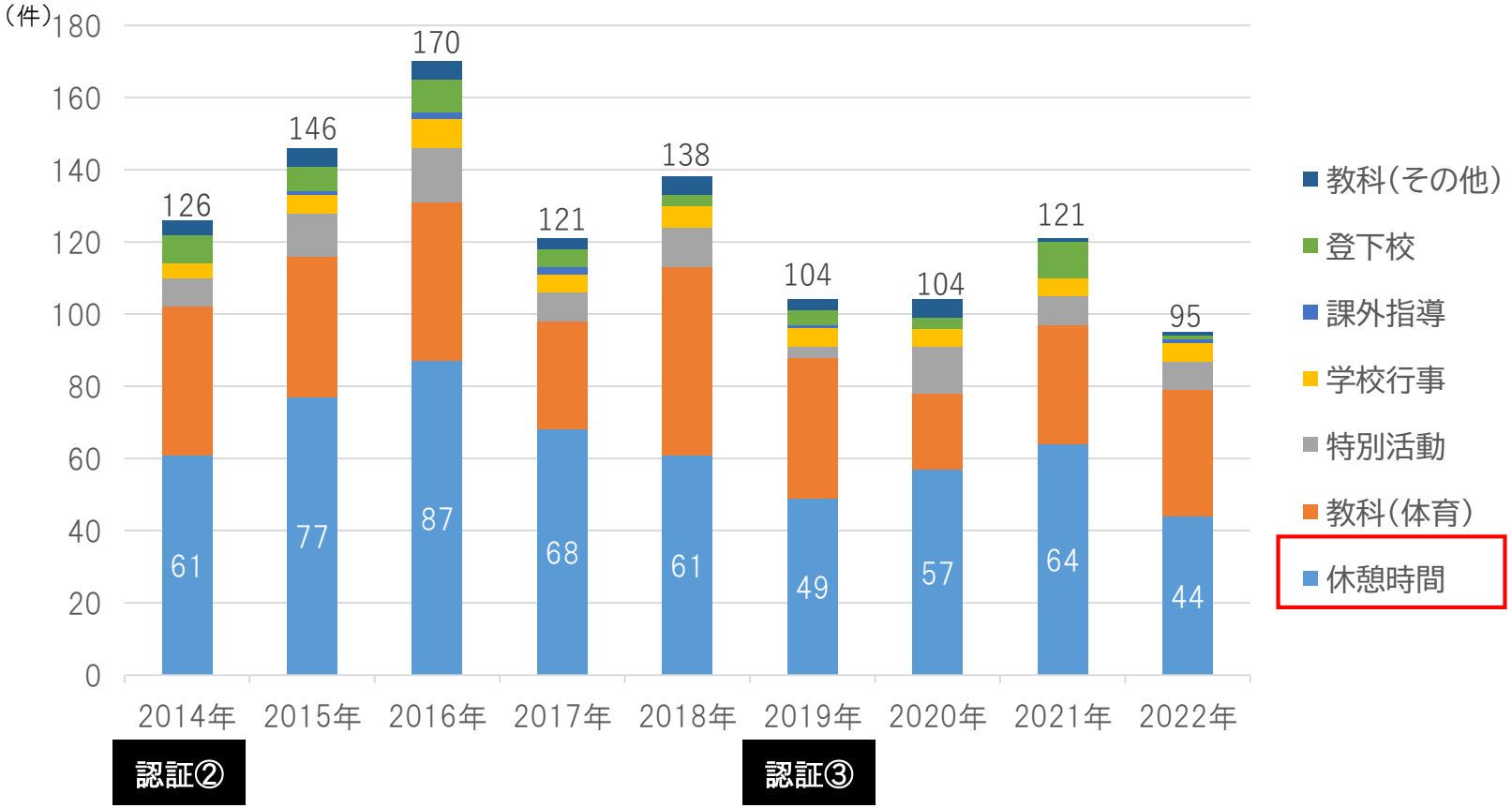
出典:救急搬送及び市立中央病院受診データ(2013年～2022年)

データから見る課題④

■ 発達段階ごとの受傷状況②

小学校におけるケガ等の発生状況は、休憩時間が多い

図表5　小学校におけるケガ等の発生状況



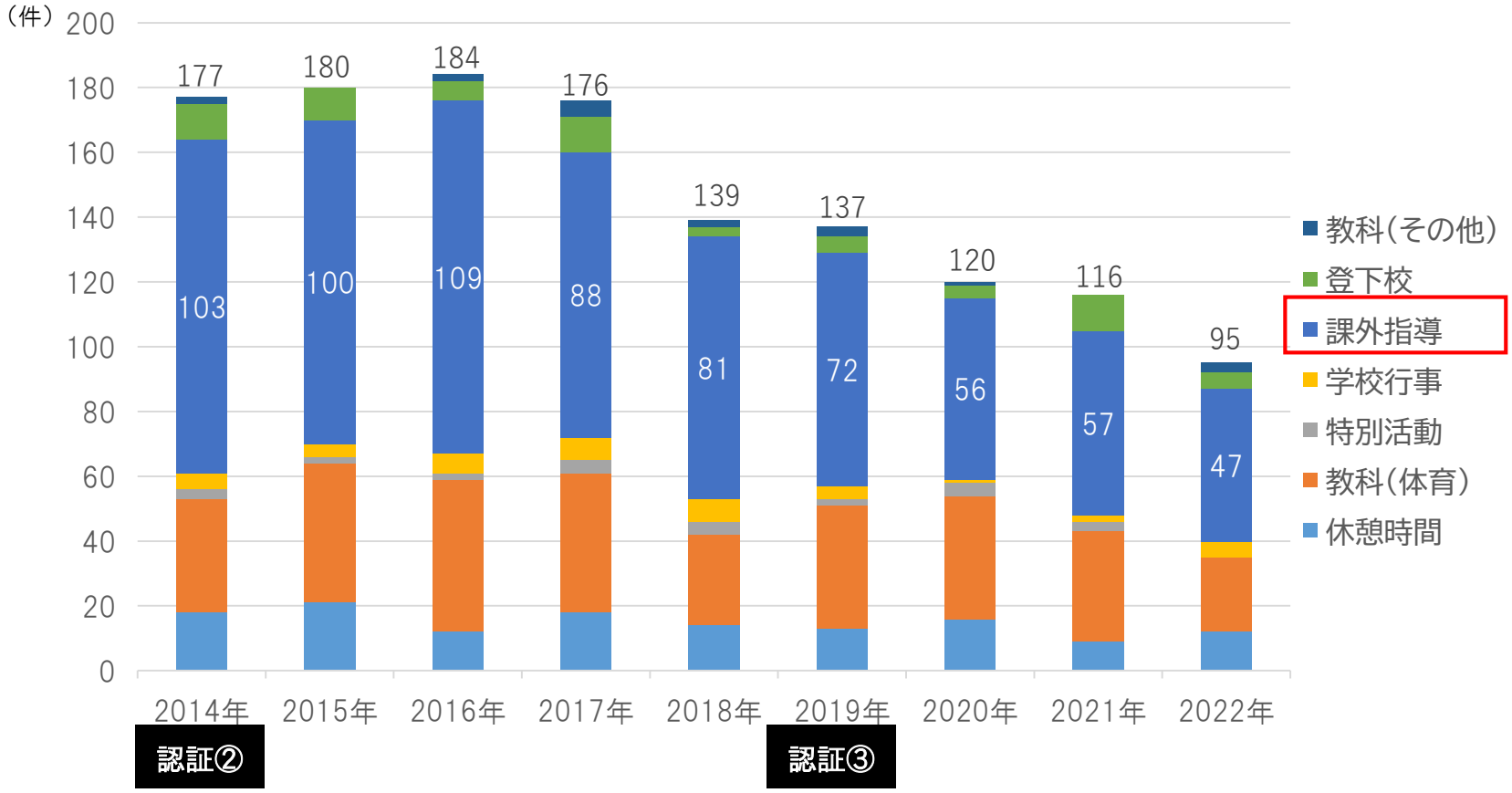
出典：日本スポーツ振興センター災害給付金（2014～2022年）

データから見る課題⑤

■ 発達段階ごとの受傷状況③

中学校におけるケガ等の発生状況は、課外指導が多い

図表6　中学校におけるケガ等の発生状況

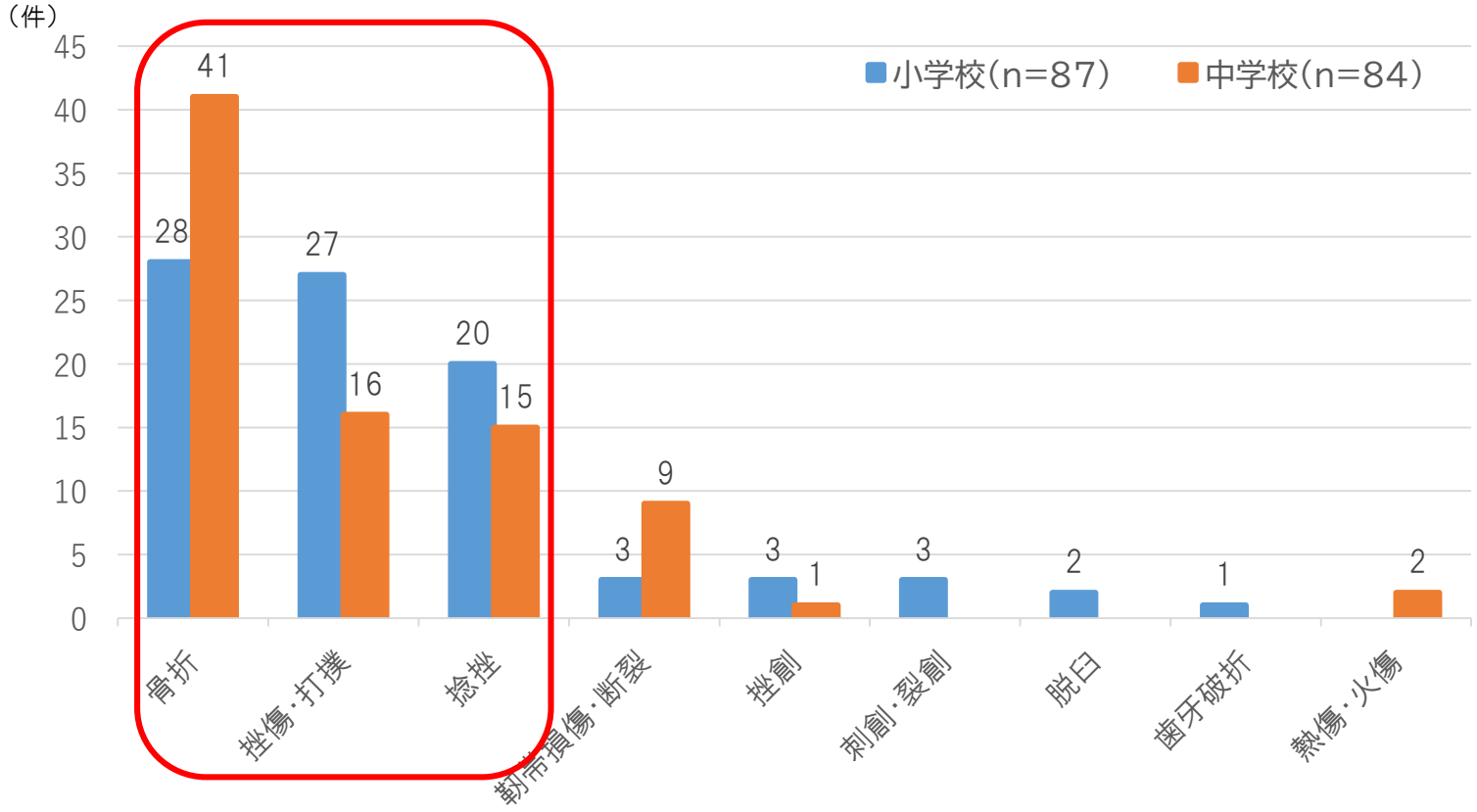


出典：日本スポーツ振興センター災害給付金（2014～2022年）

データから見る課題⑥

■ 小学校、中学校におけるケガ等の種類は、小学校・中学校ともに骨折、挫傷・打撲が多い

図表7　小学校、中学校におけるケガ等の種類（※疾病除く）



出典：日本スポーツ振興センター災害給付金（2022年）

課題の整理と取組

課題	子どもの安全対策部会の取組
① 乳幼児の自宅(屋内)での転倒、転落等のケガが多い。 図表3,4	乳幼児を持つ親の意識啓発
② 小学校では休憩時間でのケガが多い。 図表5,7	小学校の安全対策の啓発

課題①に対するレベル別の対策

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
乳幼児は自宅（屋内）での転倒、転落のけがが多い。	教育・啓発	・「健やか親子21」パンフレットの活用 ・のびのびあおもり子育てプラン	・生後1ヵ月児の家庭訪問 ・乳幼児健診 ・第2次健康とわだ21 ・すこやか手帳配布 **対策部会の関わり** **乳幼児を持つ親の意識啓発** **（乳幼児を持つ親の意識啓発プログラム）**	・安全劇の開催 ・ヒヤリハット会議 ・園だより配布 ・ポスター掲示
	規制・罰則	・消費生活用製品安全法（PSCマーク） ・食品衛生法（おもちゃの安全性の規定）		
	環境整備	・こどもの事故防止に関する関係府省庁連絡会議	・乳幼児健診	・安全柵やマットなど、年齢に応じた環境整備 ・遊具等の点検

課題②に対するレベル別の対策

課題	対策		
	方向性	国・県レベル	市(学校)レベル
小学校では休憩時間でのけがが多い。	教育・啓発		・セーフコミュニティだよりによる安全対策の周知 ・各校で校内歩行、体育館の使用について約束事を設けている。 **対策部会の関わり** **小学校の安全対策事例の周知** **(小学校の安全対策プログラム)**
	規制・罰則	・学校の保健、安全に関する法令	・学級担任等からの指導
	環境整備	・第3次学校安全の推進に関する計画	・学校や公園などの遊具の点検 ・児童会等による休憩時間の見回り

プログラムの運営状況（前回認証後）

区分	進行状況				
	2019年 認証③	2020年	2021年	2022年	2023年
①乳幼児を持つ親の意識啓発プログラム	保育所等入所児童の保護者に対し、アンケート調査を実施			保育所等入所児童の保護者に対し、アンケート調査を実施	継　続
②小学校の安全対策プログラム	継　続 コミュニティだより発行	新型コロナウイルスにより実施できず			新　規 プログラムの内容を変更

乳幼児を持つ親の意識啓発プログラム

<table>
<tr><td>課題</td><td colspan="3">乳幼児の自宅（屋内）での転倒、転落等のケガが多い</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="3">乳幼児を持つ親に対し、ケガに関する注意喚起を図り、乳幼児のケガを減らす</td></tr>
<tr><td rowspan="5">内容等</td><td colspan="3">健診に来た乳幼児の保護者に誤飲、窒息等の家庭内事故の予防を行う</td></tr>
<tr><td>【財源】</td><td colspan="2">十和田市</td></tr>
<tr><td>【対象】</td><td colspan="2">乳幼児を持つ親</td></tr>
<tr><td>【活動】</td><td colspan="2">乳幼児健診等を活用した注意喚起、ポスターによる啓発</td></tr>
<tr><td>【人材】</td><td colspan="2">市保健センター、各保育所など</td></tr>
<tr><td>（短期）
認識や知識の変化</td><td colspan="2">【指標】
乳幼児健診受診者</td><td>【測定】
市役所調べ</td></tr>
<tr><td>（中期）
態度や行動の変化</td><td colspan="2">【指標】
家庭内の安全対策に取り組む人の割合</td><td>【測定】
保育所等入所児童の保護者へのアンケート</td></tr>
<tr><td>（長期）
状態や状況の変化</td><td colspan="2">【指標】
0～4歳の一般負傷における受傷者数</td><td>【測定】
救急搬送及び医療機関受診データ</td></tr>
</table>

プログラムの活動状況①

■ 乳幼児健診を活用した注意喚起（市の取組）

市が実施している4か月児健診、1歳6か月児健診等の際に、「子どもすこやか手帳」や「事故防止パンフレット」を配布し、乳幼児の保護者に対し、転倒・転落や誤飲・窒息等の家庭内事故の予防を呼びかけています。

子どもすこやか手帳

事故防止パンフレット

プログラムの活動状況②

■ 子どもの安全対策部会の取組

	目的	活動概要
2019年	調査・啓発	アンケート調査（回答数1,466件） 啓発用ポケットティッシュ配布 （市役所、保健センター、保育園等44施設）
2020年	啓発	アンケート調査（2019年実施）結果の ポスター作成・配布（保育園、子育て支援センター、公共施設等44施設）
2021年		新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、活動なし
2022年	調査・啓発	アンケート調査（回答数1,116件） 啓発用絆創膏配布（アンケート配布時）
2023年	啓発	アンケート調査（2022年実施）結果の ポスター作成・配布予定（保育園、子育て支援センター、公共施設等43施設）

プログラムの活動状況③

■ 乳幼児を持つ保護者の安全意識調査（2022年）

調査対象：市内保育園等30施設に入園している園児の保護者1,544人
回収：1,116枚（回収率72.3%）

質問内容
①家の中で、お子さんの転倒時に備え、テーブルの角にクッションテープを貼るなどの対策をしていますか。
②「誤飲」を予防するために、お子さんの手の届かないところに小物を置くことを心がけていますか。
③家の浴槽に残し湯をしていますか。
④家のストーブなどの暖房器具に安全柵を使用していますか。
⑤家の階段に安全柵を使用していますか。
⑥お子さんを車に乗せるときは、チャイルドシート・ジュニアシートを装着していますか。
⑦お子さんを車に乗せるときは、チャイルドロックをしていますか。
⑧過去に、家の中でお子さんがケガをして（しそうになって）、ひやっとしたことがあったら教えてください。

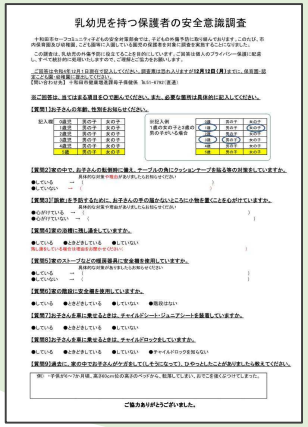
プログラムの活動状況④

2019年
啓発用ポケットティッシュ配布
（市役所、保健センター、保育園等）

2020年
アンケート調査（2019年実施）結果の
ポスター作成・配布（保育園等）

B3　50部作成

2022年
アンケート調査（保育園等）
啓発用絆創膏配布



2,000個

啓発用ポケットティッシュ配布

プログラムの活動状況⑤

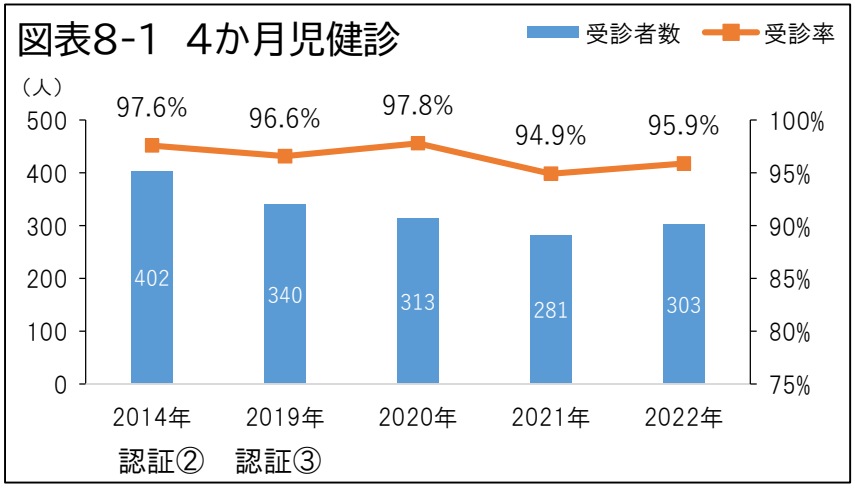
■ アンケート調査の結果を元に、市内保育園や乳幼児を持つ親に対して、注意喚起を図るチラシやポスターを作成し、部会員が配布

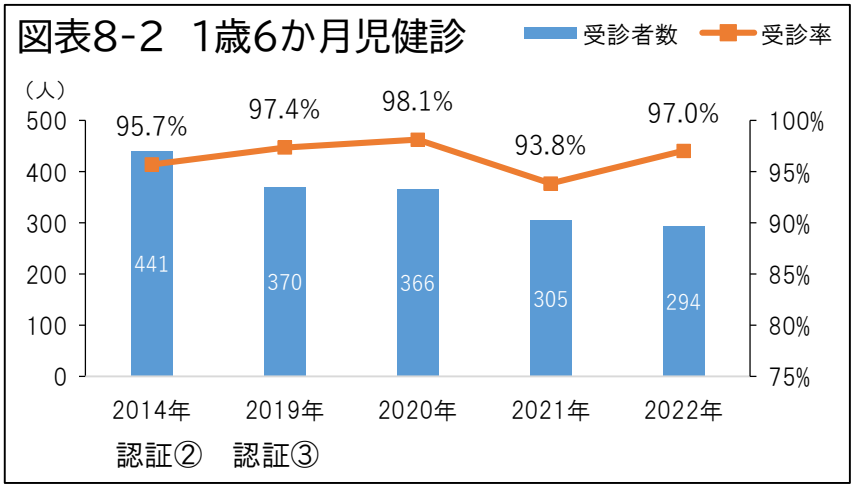
市内保育園に貼っている啓発用ポスターです。
保育園の送迎時に保護者が見て行きます。

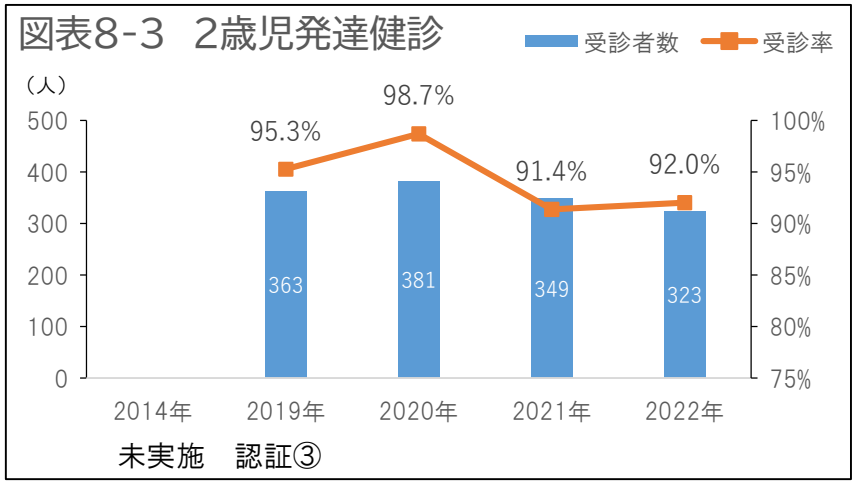
プログラムの活動評価（短期）

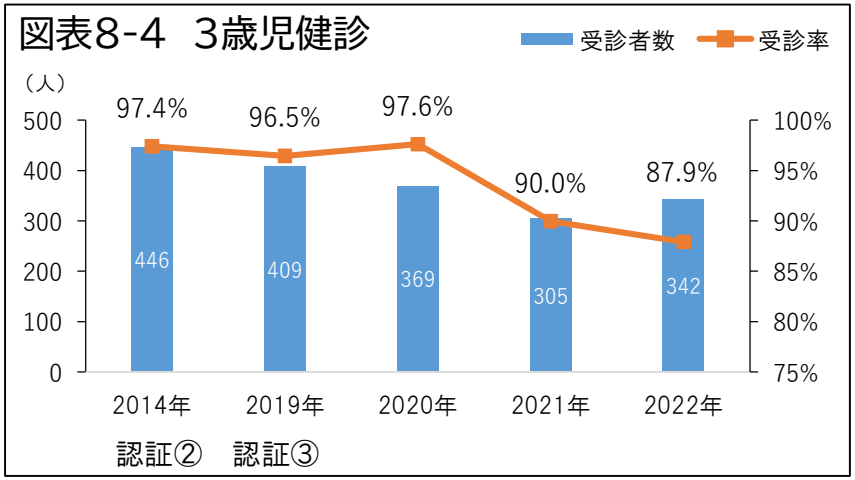
■乳幼児健診受診者の推移

受診率は高いものの、年齢が上がると受診率が低下している









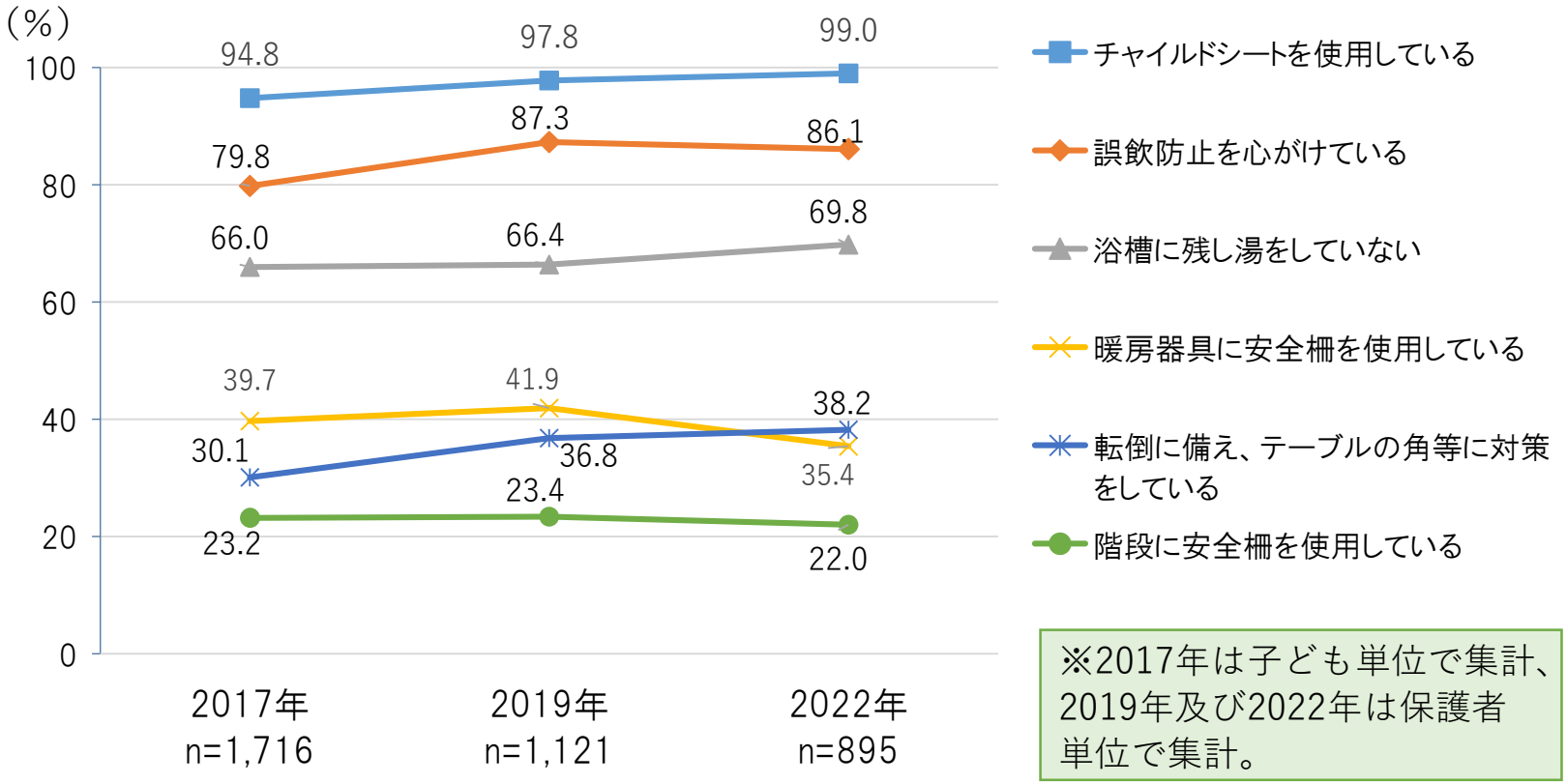
出典：健康増進課

プログラムの活動評価（中期）

■家庭内の安全対策に取り組む人の割合

暖房機器への安全柵、転倒防止対策、階段の安全柵の設置率は低い

図表9　保育園児の保護者へのアンケート結果（中期）



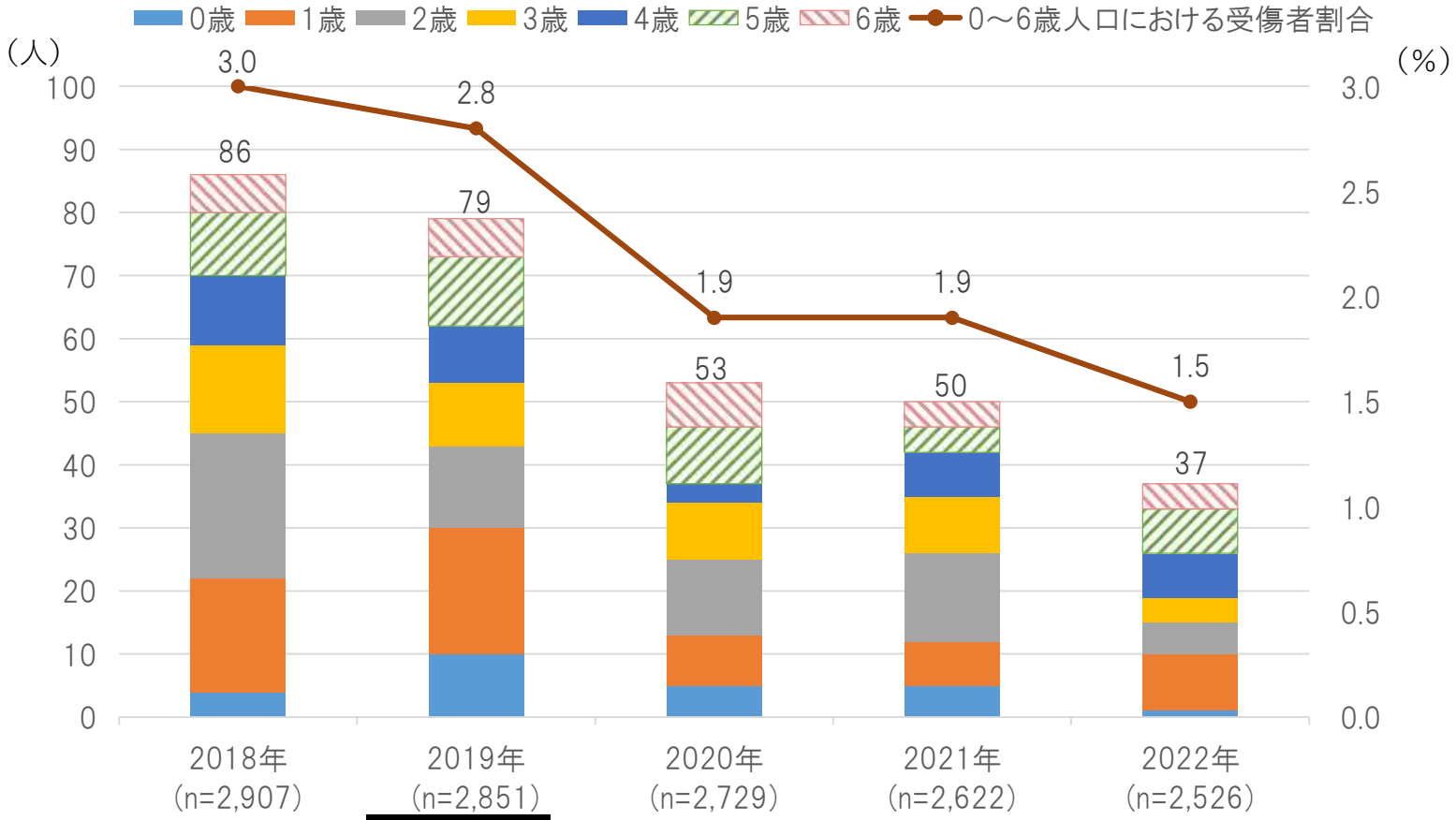
※2017年は子ども単位で集計、2019年及び2022年は保護者単位で集計。

出典：SC子どもの安全対策部会調べ

プログラムの活動評価（長期①）

■ 受傷者数は減少している。

図表10　乳幼児の一般負傷における受傷者数の推移



認証③

出典：救急搬送及び市立中央病院受診データ

プログラムの活動評価（長期②）

■ 乳幼児の受傷の経緯にも変化が見えてきた。

・0～1歳の転落は大幅に減少。
・転倒、やけどは大きく減っていない。

図表11 乳幼児の一般負傷の受傷経緯比較（左：2013-2017、右：2018-2022）

年齢	総数	1位	2位	3位
0歳	40	やけど(10)	転落(9)	誤飲(7)
1歳	90	転落(28)	やけど(18)	転倒(16)
2歳	52	転倒(12)	転落(10)	接触又は衝突/やけど(8)
3歳	45	転倒(12)	転落(10)	接触又は衝突(9)
4歳	32	転倒(6)	接触又は衝突/やけど(5)	-
5歳	16	転落(4)	転倒(4)	接触又は衝突/やけど/誤嚥(2)
6歳	20	転倒(6)	接触又は衝突(4)	やけど(3)

総数	1位	2位	3位
18	やけど(9)	転落(3)	誤飲/接触又は衝突(2)
48	転倒(16)	転落/やけど(5)	-
46	転倒(12)	転落(11)	やけど(8)
28	転倒(9)	転落(6)	やけど(4)
20	転落(8)	接触又は衝突(4)	やけど(3)
18	転倒(6)	転落/やけど(3)	-
16	転倒(5)	切る、刺す(3)	転落/やけど/誤飲(2)

出典：救急搬送及び市立中央病院受診データ（2013年～2022年）

小学校の安全対策プログラム

<table>
<tr><td>課題</td><td colspan="3">小学校では、休憩時間でのケガが多い</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="3">小学校の休憩時間に発生する外傷件数を減らす</td></tr>
<tr><td rowspan="5">内容等</td><td colspan="3">各学校での効果的な安全対策の取り組み事例の情報提供、児童会による注意喚起</td></tr>
<tr><td>【財源】</td><td colspan="2">十和田市</td></tr>
<tr><td>【対象】</td><td colspan="2">小学校の児童</td></tr>
<tr><td>【活動】</td><td colspan="2">小学校での注意喚起</td></tr>
<tr><td>【人材】</td><td colspan="2">小学校、教育委員会</td></tr>
<tr><td>（短期）
認識や知識の変化</td><td colspan="2">【指標】
学校下内で注意している児童の数
➡取組事例をもとに実施した学校数</td><td>【測定】
児童の安全意識調査
➡教育委員会調べ</td></tr>
<tr><td>（中期）
態度や行動の変化</td><td colspan="2" rowspan="2">【指標】
小学校の休憩時間に受傷した児童数</td><td rowspan="2">【測定】
教育委員会調べ</td></tr>
<tr><td>（長期）
状態や状況の変化</td></tr>
</table>

プログラムの活動状況

	目的	活動概要
2019年	啓発	コミュニティだより発行(法奥小学校の取組を紹介、市内小学校25校に配布)
2020～2022年		活動なし

2019年
コミュニティだより
発行、配布
（市内小中学校25校）

子どもの安全対策部会　各学校の安全対策事例紹介

令和元年１０月１日

十和田市セーフコミュニティだより

子どもの安全対策部会 発行

子どもの安全対策部会では、「幼児・児童の安全対策プログラムの策定」に取り組んでいます。

今回は児童・保護者・教職員が一緒になって学校安全について考える、法奥小学校の「すこやか健康安全会議」の取組を紹介します。

すこやか健康安全会議

【 実 施 月 日 】　令和元年６月２８日（金）

【 テ ー マ 】　「からだを上手に使ってけがを減らそう」

健康委員会のみなさんが、テーマ設定の理由を劇で紹介しました！

積極的にマラソンや縄跳びをしたり、休み時間は元気に外で遊ぶなどして日常的に体を動かしたりしている友達が多いです。

でも、体育や遊びでけがをする友達も多いです・・・。

どうして、けがをするんだろう？

教えてくれたのは、八戸学院大学健康医療学部人間健康学科

講師　工　藤　裕太郎　先生です！

危険な物がない場所でけがをしてしまう原因は主に２つです。

① ムリをする

② 自分の体をコントロールできない

えっ、自分では体をコントロールしていると思うけど・・・。

「コーディネーション能力」を高めよう！

コーディネーション能力とは、カラダを自由に（思い通りに）動かすために必要な能力のことです！

コーディネーショントレーニングをご紹介します。

- 片足を上げて、１０秒キープする。次は目をつぶってやる。次は足を揺らしてみる。
- あと出しジャンケン（２人一組になり、右手でジャンケンし、左手で相手があとだしジャンケンに勝つものを出す。）
- 一人じゃんけん（右手が勝つようにジャンケンをする。次は、左手が勝つようにジャンケンする。）

このほかにも、たくさんのトレーニングを体験しました！

「すこやか健康安全会議」はいかがでしたか？

少しのことでもけがをするということが分かりました。ぼくは、体を自分に動かせないので動かせるように教えてもらったことは、楽しくできるのでやりたいです。おふろから上がったあとにストレッチをして体を柔らかくして、けがをしないようにしたいです。（３年長畑かなた）

私は今日運動をしてみて、これから家などで練習していきたいと思います。私は、怪我をすることは少ないけど、たまに不意に足がぶいなと思うことがあるので、コーディネーション能力を高めて、そういうことがないようにしたいと思います。これから、自分の体を上手にコントロールしてけがのない生活をしたいと思います。（６年白山れも）

プログラム活動内容の変更

■プログラムの活動内容を一部変更

【変更前】

十和田市セーフコミュニティだよりの発行

学校関係者に直接情報提供できる機会を設けた方が、より効果的な取組になるのではないかとの意見があり、部会内で協議を行う。

【変更後】

市内小学校が実施している効果的な安全対策の取り組み事例を情報交換

プログラム活動内容の変更（2023年）

■児童生徒健康増進部会における活動内容の情報交換

◆ 2023年4月
休憩時間の事故防止について情報交換◆

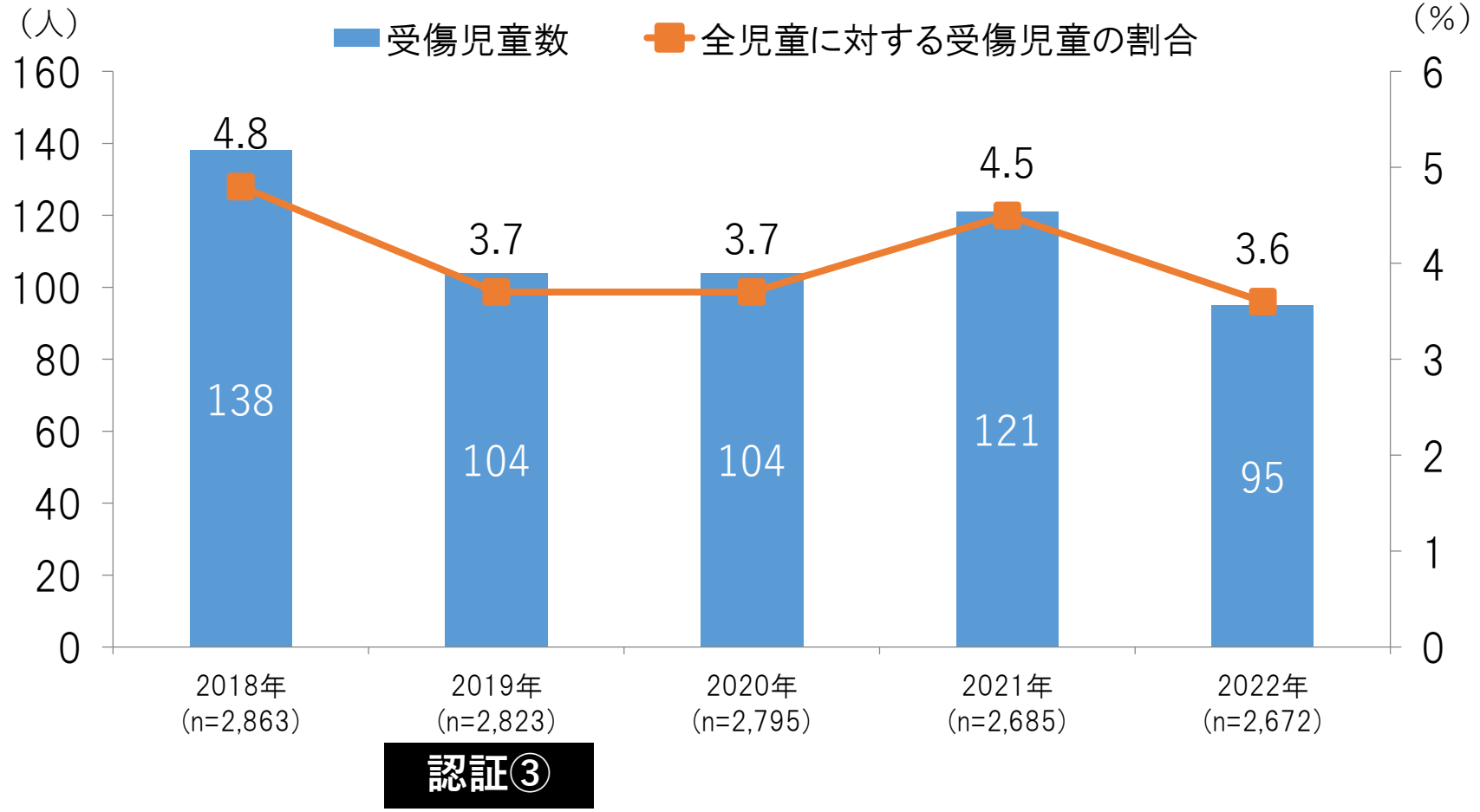
市内小中学校の保健主事・養護教諭で構成されている児童生徒健康増進部会において、「休憩時間の事故防止について」の各校の取組を情報交換した。

体育館の遊び方のルールや階段や廊下歩行のしかた等の取組事例を共有することで、各校での実践に生かしていく。

プログラムの活動評価①

■ 受傷児童数はコロナ過でも変化していない。

図表12 小学校管理下内で受傷した児童数の推移

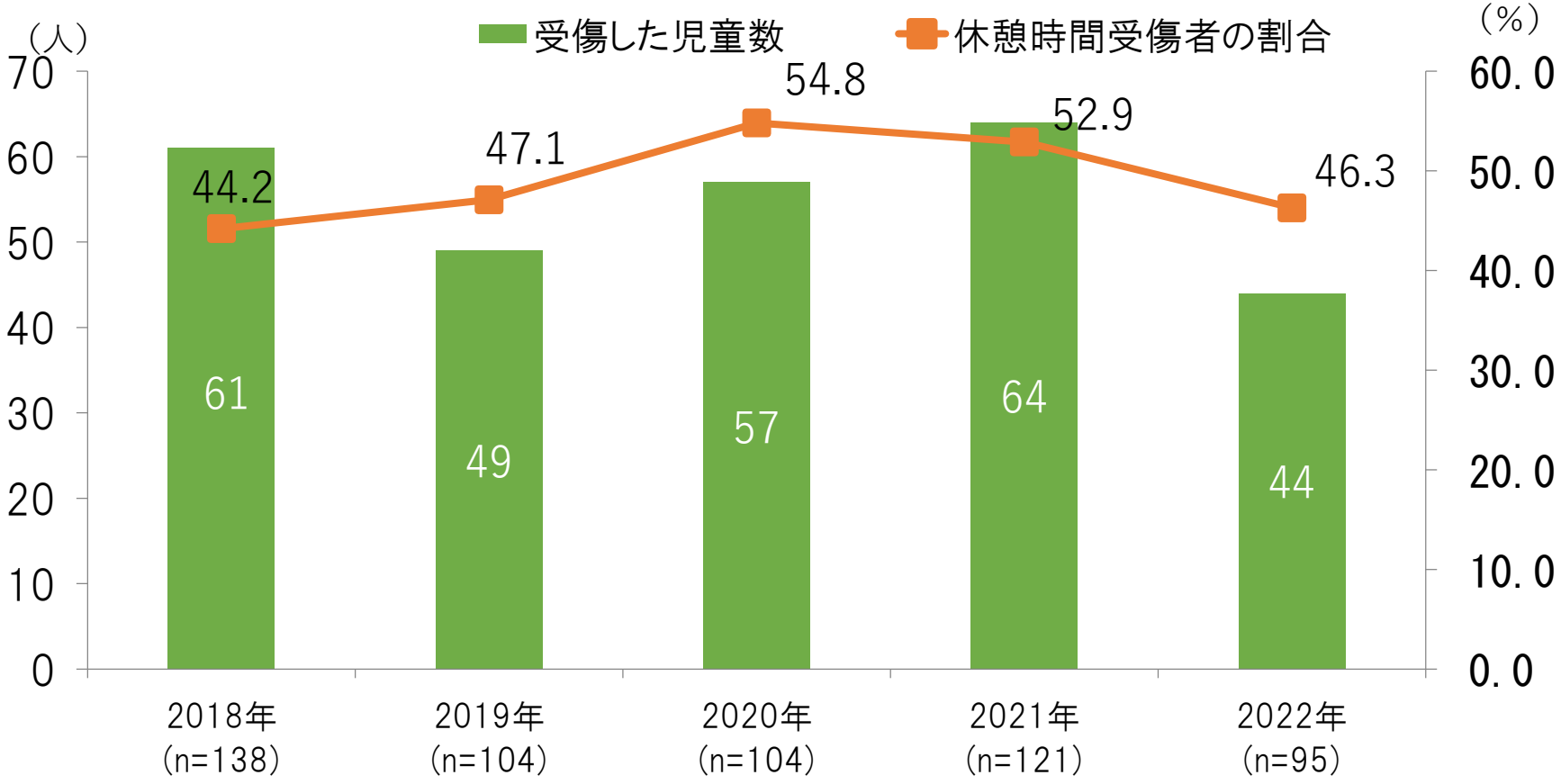


出典：日本スポーツ振興センター災害給付金

プログラムの活動評価②

■ 休憩時間受傷者数は減少したが、割合は変化していない。

図表13　小学校の休憩時間に受傷した児童数の推移（中・長期）



認証③

出典：日本スポーツ振興センター災害給付金

その他の活動

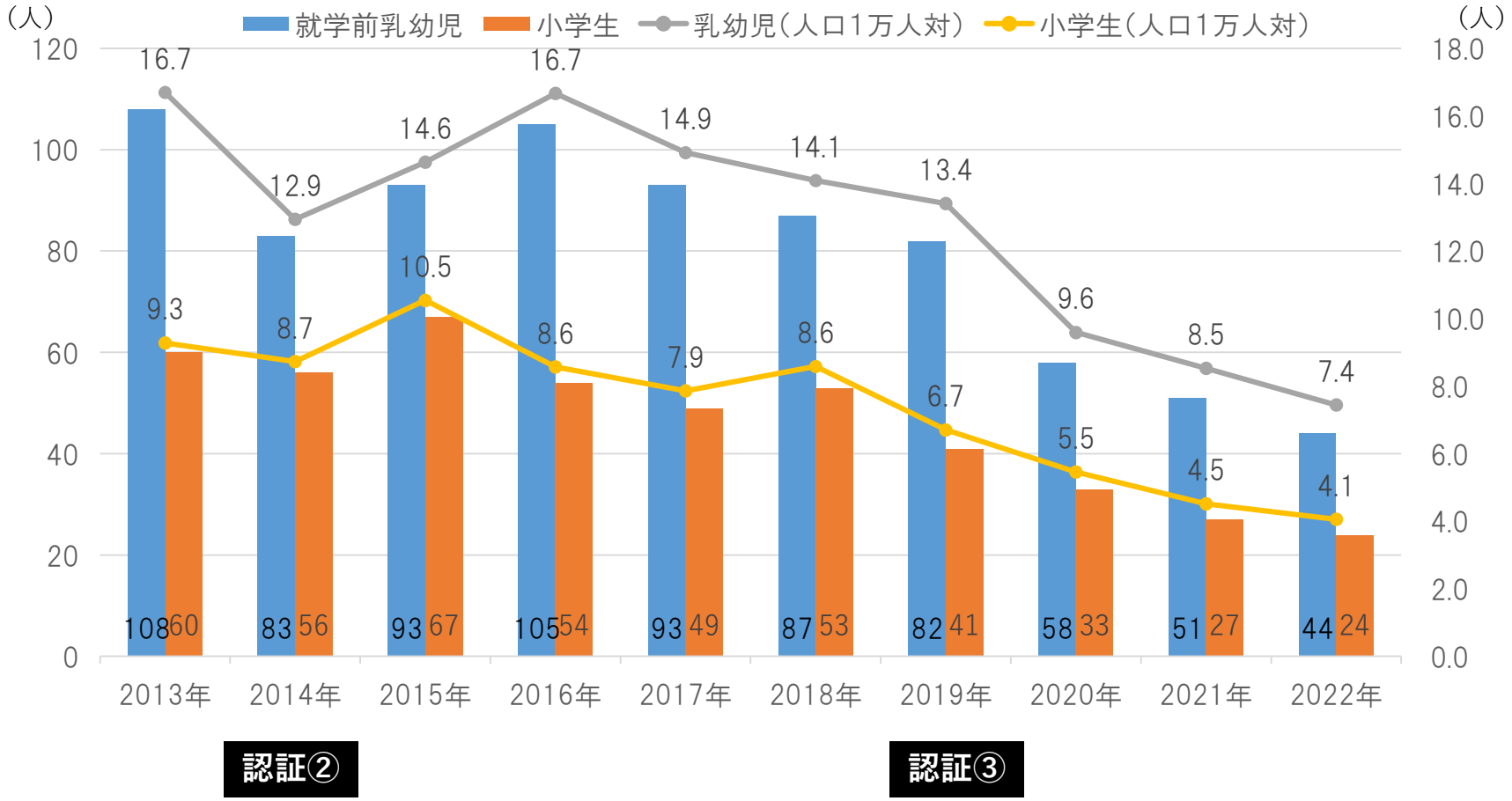
	課題	目的	活動概要
2019年	子どもへの暴力・虐待対策	暴力・虐待予防対策部会との合同取組	・きらめき講座「子ども相談センターの役割、子どもの暴力等について」を受講 ・部会同士の話し合い
2020年	自殺予防対策	対策部会全体での取組	自殺予防に向けたステッカー配布（保育園20施設）

虐待部会との合同取組：きらめき講座受講、話し合いの様子（2019）

プログラムの活動評価【全体】①

■ 就学前乳幼児と小学生の受傷者数は減少している。

図表14　就学前乳幼児と小学生の受傷者数の推移



出典：救急搬送及び市立中央病院受診データ（2013年～2022年）

プログラムの活動評価【全体】②

■ **近年は18歳未満の不慮の事故等による死亡者が発生していない。**

図表15　子どもの不慮の事故等による死亡者数

死亡原因	2014～2018年 合計 n＝4	区分				2019～2021年 合計 n＝1	区分			
		就学前乳幼児	小学生	中学生	高校等		就学前乳幼児	小学生	中学生	高校等
不慮の事故	3人	25%(1)	25%(1)		25%(1)	1人				100%(1)
窒息	1人	25%(1)				0人				
交通事故	1人				25%(1)	0人				
溺死溺水	1人		25%(1)			1人				100%(1)
自殺	1人			25%(1)		0人				

出典：人口動態調査［厚生労働省］　※（　）内は人数

取り組みによる気付き

乳幼児の安全を守るためには、保護者の安全に対する意識を高める活動が重要。

児童においては、自分の安全は自分で守るという意識を持たせることが大切。

コロナ禍を経て、児童の運動能力の低下を感じる。怪我をしやすいかもしれない。

時代の変化とともに、おもちゃも変わっている。部会でも情報を得ていく必要がある。

アンケート調査方法の見直しを検討する（子育てアプリの活用など）

課題

●乳幼児健診未受診の保護者に対する啓発ができていない。

●乳幼児の安全対策のうち設置率が変わらない。

今後の計画

2023年	2024年 （認証４回目）	2025年	2026年	2027年	2028年

①乳幼児を持つ親の意識啓発プログラム

【継続】

・既存の健康診断を活用し、家庭内事故の予防を呼びかける

・チラシ・ポスターを活用した配布先の拡大

【拡充】

・健診等未受診者への啓発活動

②小学校の安全対策プログラム

【継続】

・市内各小学校の安全対策について、児童生徒健康増進部会において情報交換し、各学校での実践に生かす。

ご清聴ありがとうございました

今日も無事でいてほしい

十和田市セーフコミュニティ推進マーク
「十」十和田市の安全な街並み、
「和」美しい郷土・十和田湖と紅葉、
「田」人々の協働・交流・絆を表現